相模原市立旭中学校
令和７年度全国学力学習状況調査結果　分析と考察
-国語編-

令和７年度の結果分析と考察（総括）

令和７年度全国学力学習状況調査の結果から本校生徒の傾向を分析、考察した。

次項以降に記してあるとおり、今年度は出題の趣旨と学習指導要領に示されている言語活動との関連（中学校国語８１指導事項）について分析してみた。出題形式は・選択・短答・記述である。

問題別調査結果（別添）において、全国、神奈川県と比べて本校生徒の正答率はほとんどの問いに対して高い結果となった。一方、無解答率では下回る結果であった。全国平均正答率５４．３%、神奈川県５５%に対して、本校は６０%であった。

この結果から、本校生徒の国語の理解度や習熟度は高く、また苦手意識は低いのではないかという仮説が立てられる。そこで、問題別結果から各設問の問題趣旨と学習指導要領に示されている言語活動との関連と照らし合わせて分析と改善点、今後の指導について考察してみた。

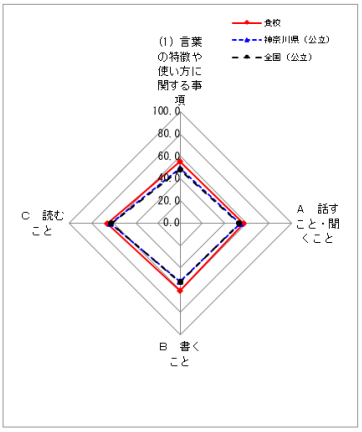
	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
相模原市立旭中学校	232	8.4 / 14	60	9.0	2.7
神奈川県（公立）	59,447	7.6 / 14	55	8.0	2.7
全国（公立）	870,560	7.6 / 14	54.3	8.0	2.7

集計結果

対象生徒数	相模原市立旭中学校	神奈川県（公立）	全国（公立）
	232	59,447	870,560

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 貴校	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体			14	60	55	54.3
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	55.4	49.0	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	4	56.8	53.9	53.2
		B　書くこと	5	60.6	52.3	52.8
		C　読むこと	3	65.8	62.9	62.3
評価の観点		知識・技能	2	55.4	49.0	48.1
		思考・判断・表現	12	60.6	55.5	55.3
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	8	68.8	64.8	63.9
		短答式	2	83.0	71.8	73.6
		記述式	4	30.6	25.4	25.3

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



大問４（１４の設問）選択式８　短答式２　記述式４

１「B 書くこと」

２「A 話すこと・聞くこと」

３「C 読むこと」

４「B 書くこと」（推敲）

＊中学校第２学年までの内容から出題

R７全国学力学習状況調査【中学校国語・数学・生徒質問】

相模原市立旭中学校

この分析では、旭中学校の国語の平均正答率を、神奈川県（公立）および全国（公立）と比較し、特にどの分野や問題形式で強みや課題があるかを明らかにします。

旭中学校 国語 調査結果の全体分析

旭中学校 平均正答率　60.0%
神奈川県（公立）平均正答率　55.0%
全国（公立）平均正答率　54.3%
全国・県平均を大きく上回る

旭中学校の国語の平均正答率（60.0%）は、全国平均（54.3%）を 5.7 ポイント、神奈川県平均（55.0%）を 5.0 ポイントと、大きく上回っており、国語全体で高い学力水準にあることがわかる。

1. 学習指導要領の内容別分析

旭中学校は、すべての内容区分で全国および県平均を上回っている。
特に「書くこと」と「読むこと」で強みが見られる。

○強み：思考力、判断力、表現力等

	旭中学校 正答率	県平均 正答率	全国平均 正答率
B 書くこと	60.6%	52.3%	52.8%（全国比 7.8pt 優位）
C 読むこと	65.8%	62.9%	62.3%（全国比 3.5pt 優位）
A 話すこと・聞くこと	56.8%	53.9%	53.2%（全国比 3.6pt 優位）
(1) 知識及び技能	55.4%	49.0%	48.1%（全国比 7.3pt 優位）

「書くこと」(B) の正答率は 60.6%で、全国平均（52.8%）を 7.8 ポイント上回る特筆すべき強みが見られる。これは、自分の考えを文章として構成し、表現する能力が高い生徒が多いことを表している。

「知識及び技能」((1) 言葉の特徴や使い方）でも、全国比で 7.3 ポイント優位であり、語彙や漢字、文法といった基礎的な言語知識の定着度が高いことが分かる。

「読むこと」(C) も 65.8%と高く、文章の内容理解力、登場人物の心情把握、表現効果の考察といった能力が総じて高いレベルにある。

2. 評価の観点別・問題形式別分析

評価の観点別（思考・判断・表現に強み）

評価の観点	旭中学校 正答率	県平均 正答率	全国平均 正答率	
思考・判断・表現	60.6%	55.5%	55.3%	（全国比 5.3pt 優位）
知識・技能	55.4%	49.0%	48.1%	（全国比 7.3pt 優位）

特に「思考・判断・表現」の正答率が全国平均を上回っており、知識を基に論理的に考え、自分の意見を形成し、適切に表現する力（書くこと、話すこと、読むことの応用力）が優れていることが裏付けられる。

問題形式別（記述式に大きな課題）

問題形式	旭中学校 正答率	県平均 正答率	全国平均 正答率	
選択式	68.8%	64.8%	63.9%	（全国比 4.9pt 優位）
短答式	83.0%	71.8%	73.6%	（全国比 9.4pt 優位）
記述式	30.6%	25.4%	25.3%	
			（依然として低いが、全国比 5.3pt 優位）	

選択式と短答式（記号、短い語句の解答）の正答率が全国を大きく上回っており、内容の核となる部分の理解度や知識の瞬発的なアウトプット能力が高いことが示されている。

しかし、記述式の正答率は 30.6%と、他の形式に比べて圧倒的に低い傾向にある。これは全国的な傾向（全国 25.3%）であり、旭中学校もその例外ではない。ただし、全国平均（25.3%）より 5.3 ポイント高いため、全国比で見れば「記述力」も相対的な強みであると評価できる。

3. 問題別分析と具体的な課題

問題番号（旭中学校 正答率・全国平均 正答率・傾向と課題点）

1 四　ちらしの読み手に向けた工夫を伝える文章を書く（記述）　旭 33.2%、全国 31.0%
　課題：「書くこと」の中でも、根拠を明確にした伝わる文章構成力に課題が残る。

2 四　発表のスライドの工夫について助言を書く（記述）　旭 27.2%・全国 23.2%
　課題：資料や機器を用いた表現の工夫を具体的に助言する能力に課題。

3 四　構成・展開の効果について、考えとその理由を書く（記述）　旭 24.1%・全国 17.1%
　全国比 7.0pt 優位で、記述の中で最も得意。
　強み：文章の構成・展開の意図を考察し、論理　的に説明する力は高い。

4 二　手紙の修正箇所と理由を書く（記述）　旭 37.9%・全国 30.1%
　課題：「読み手の立場に立った」文章の推敲と理由づけに課題が残る。

1 一　文脈に即した漢字の正答（選択）　旭 44.0%・全国 35.2%
　強み：漢字（語彙）の知識・定着度が高く、全国を 8.8 ポイント上回る。

強みと課題の焦点化

分野　傾向　　示唆される能力

・全般的な理解と基礎知識

・選択式、短答式、知識・技能の優位

○基礎的な知識、語彙力、文章の核となる内容の理解力は非常に高い。
　記述表現力（相対的強み/絶対的課題）　記述式が 30.6%と低いが、全国比では優位　自分の考えや考察を論理的に構成し、文章として表現する訓練は全国平均より進んでいるが、まだ大きな伸びしろがある。

「構成や展開の考察」（3 四）

・記述式の中で最も優位（全国比+7.0pt）

〇文学的な考察や論理的な理由付けの能力は高く、特に読むことの応用力が優れている。

「書くこと・推敲」関連（1 四, 2 四, 4 二）

・記述式の中で正答率が低い傾向

〇実用的な文章（ちらし、手紙）の構成や、読み手を意識した表現の工夫・修正といった「実生活に役立つ書く力」に改善の余地がある。

結論として、 旭中学校の生徒は、国語の知識・基礎力と文章の論理的考察力において高い水準にあり、全体平均を大きく牽引している。しかし、その力を「実用的な場面」で、自分の考えを分かりやすく構成・表現する記述力として最大限に発揮するには、更なる訓練が必要であると言える。

-数学編-

相模原市立旭中学校のデータについて、全国および神奈川県と比較しながら分析します。

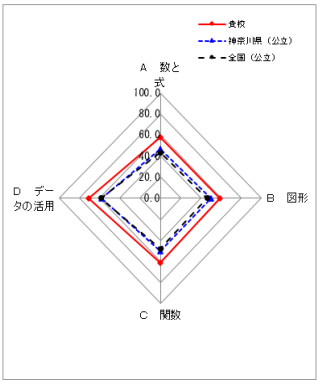
	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
相模原市立旭中学校	232	8.4 / 14	60	9.0	2.7
神奈川県（公立）	59,447	7.6 / 14	55	8.0	2.7
全国（公立）	870,560	7.6 / 14	54.3	8.0	2.7

集計結果

対象生徒数	相模原市立旭中学校	神奈川県（公立）	全国（公立）
	232	59,479	871,097

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%) 貴校	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体		15	62	51	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	5	58.4	47.1	43.5
	B 図形	4	59.1	50.2	46.5
	C 関数	3	61.6	50.5	48.2
	D データの活用	3	70.5	58.1	58.6
評価の観点	知識・技能	9	64.8	56.2	54.4
	思考・判断・表現	6	56.8	42.6	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	65.4	57.9	54.0
	短答式	7	62.8	53.5	52.0
	記述式	5	57.8	42.8	39.6

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



平均正答率神奈川県（公立）　平均正答率全国（公立）　平均正答率傾向全体

62.0%　51.0%　48.3%

全国・県平均を大きく上回る旭中学校の数学の平均正答率（62.0%）は、全国平均（48.3%）を 13.7 ポイント、神奈川県平均（51.0%）を 11.0 ポイントと、非常に大きく上回っており、数学において極めて高い学力水準にあることがわかります。

1. 学習指導要領の領域別分析

旭中学校は、すべての領域において全国および県平均を大きく上回る顕著な強みを見せています。

	旭中学校 正答率	県平均 正答率	全国平均 正答率	傾向
D データの活用	70.5%	58.1%	58.6%	全国比 +11.9pt（最大優位）
C 関数	61.6%	50.5%	48.2%	全国比 +13.4pt
B 図形	59.1%	50.2%	46.5%	全国比 +12.6pt
A 数と式	58.4%	47.1%	43.5%	全国比 +14.9pt

特に「データの活用」（70.5%）が最も高く、「数と式」の正答率（58.4%）は全国平均（43.5%）を 14.9 ポイントも上回るなど、基礎・基本から応用まで、全般的に高い学力を示しています。

2. 評価の観点別・問題形式別分析

旭中学校の強みは、知識・技能の定着だけでなく、「思考・判断・表現力」といった応用力に顕著に見られます。

◆評価の観点別（思考・判断・表現に特筆すべき強み）

旭中学校 正答率　県平均 正答率　全国平均 正答率

〈思考・判断・表現〉

56.8%　42.6%　39.1%　全国比 +17.7pt の特筆すべき優位

〈知識・技能〉

64.8%　56.2%　54.4%　全国比 +10.4pt の優位

「思考・判断・表現」の正答率（56.8%）が、全国平均（39.1%）を 17.7 ポイントも上回る驚異的な結果です。これは、単なる計算や知識の暗記に留まらず、数学的な事象を深く考察し、論理的に説明したり、問題解決の方法を構想したりする応用能力が非常に高いことを示しています。

◆問題形式別（記述式にも強い）

	旭中学校 正答率	県平均 正答率	全国平均 正答率	傾向
○記述式	57.8%	42.8%	39.6%	全国比 +18.2pt の特筆すべき優位
○選択式	65.4%	57.9%	54.0%	全国比 +11.4pt の優位
○短答式	62.8%	53.5%	52.0%	全国比 +10.8pt の優位

「記述式」問題の正答率（57.8%）が、全国平均（39.6%）を 18.2 ポイントと圧倒的に上回っています。これは、前述の「思考・判断・表現」の高さと連動しており、数学的な考え方や解法を、言葉や式を用いて明確に表現する能力が全国トップクラスであることを示唆しています。

〈問題別分析と具体的な強み〉

旭中学校 正答率　全国平均 正答率

・一次関数の変化の割合（短答）　47.8%　34.7% 全国比 +13.1pt。

関数分野の基本的な概念理解が高い。

・連続する 3 の倍数の和の説明を完成（記述）

69.0%　45.2%記述式で非常に高い（全国比 +23.8pt）。

文字式の意味を読み取り、事柄が成り立つ理由を論理的に説明する力が突出。

・勝ちやすさの理由を確率で説明（記述）

73.7%　55.9%　記述式で最も高い（全国比 +17.8pt）。

不確定な事象の傾向を確率で捉え、数学的な表現で判断の理由を説明する力が優れている。

・グラフから運賃の求め方を説明（記述）

56.5%　38.0%　全国比 +18.5pt。

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明する力が非常に高い。

・平行四辺形の証明を構想に基づいて完成（記述）
47.0%　　33.2%　全国比 +13.8pt。
証明問題という複雑な論理構成能力が求められる問題にも高い正答率。
・素数を選ぶ（選択）　44.8%　　31.8%　全国比 +13.0pt。
基礎的な知識の定着も全国平均を大きく上回る。

【旭中学校 数学の生徒傾向まとめ】

旭中学校の生徒は、数学において以下の二重の強みを持つ、極めて優秀な傾向を示しています。

①盤石な知識・技能の定着

「数と式」から「データの活用」まで、すべての領域で全国平均を大きく上回る正答率を示しており、基礎的な知識や技能が揺るぎなく定着しています（例：素数、外角、一次関数の変化の割合など）。

②卓越した応用・記述能力（最大の強み）

「思考・判断・表現」と「記述式」問題で、全国平均を 18 ポイント前後も上回る突出した結果を出しています。

③論理的な説明力

文字式の利用や証明、グラフの解釈など、数学的な事柄が成り立つ理由や問題解決のプロセスを、正確な数学的表現を用いて説明する能力が極めて高いです（例：6(3), 7(2), 8(2)）。この結果は、生徒たちが数学を単なる計算としてではなく、「論理的に考える手段」として学習しており、生徒質問紙で示された「数学を好き」「よく分かる」という高い意識が、実際の学力に裏打ちされていることを示しています。まさに、数学的な思考力・判断力・表現力が、この学校の生徒の最大の特長と言えます。

本校生徒は、基礎学力が定着している上に、特に論理的な思考力と表現力が全国平均を大きく上回るという、学力面で非常に優れた傾向を示しています。

【総合的な学力傾向の分析（国・数）】

1. 突出した論理的思考と記述表現力

旭中学校の生徒は、学力の基盤となる「思考力、判断力、表現力」において、国語・数学の両教科で全国平均を圧倒的に上回る特筆すべき強みを持っています。数学の思考・記述力（特筆すべき強み）思考・判断・表現の正答率（56.8%）は全国平均（39.1%）より 17.7 ポイントも高いです。記述式の正答率（57.8%）は全国平均（39.6%）より 18.2 ポイントも高いです。これは、数学的な概念や解法を深く理解し、それを論理的な文章（証明や説明）として正確にアウトプットする能力が、全国トップクラスであることを示しています。国語の思考・記述力（相対的な強み）思考・判断・表現の正答率（60.6%）は全国平均（55.3%）より 5.3 ポイント高く、特に「文章の構成・展開の意図を論理的に考察し、理由を述べる力」（記述式問題３四で全国比+7.0pt）に優れています。論理的な考察に基づき、自分の考えを文章にまとめる能力が、学力全体の高さを支えています。

2. 知識・技能の盤石な定着両教科とも知識・技能の領域で高い正答率を記録しており、難解な問題に取り組む

   ための強固な基礎学力が確立しています。

   知識・技能の優位性数学の知識・技能の正答率は 64.8%（全国比 +10.4pt)。国語の知識・技能の正答率は 55.4%（全国比 +7.3pt)。特に国語の漢字や語彙、数学の基本的な計算や概念（素数、一次関数の変化の割合など）の定着度が高く、これが応用問題へのスムーズな移行を可能にしています。

3. 教科別意識と学力の連動

   生徒の意識調査と実際の学力結果が強く連動していることが読み取れます。

   教科生徒意識調査の傾向学力調査の傾向数学「好き」の割合が非常に高い（全国比 +12.1pt）全領域で全国平均を圧倒し、応用力・記述力が突出国語「好き」の割合が低い（全国比 -9.1pt）全体正答率は高いものの、実用文の記述に課題を残す数学の好循環: 数学を「好き」だと感じる生徒が多いことが、実際の圧倒的な学力向上につながるポジティブな学習サイクルが確立していると推察されます。

○ 国語の伸びしろ: 全体平均は高いものの、生徒が国語に苦手意識を持つ傾向があるため、特に実用的な文章（ちらし、手紙）の構成や推敲といった部分（記述式１四、4 二など）に、今後の改善の余地と伸びしろがあります。論理的な考察力は高いため、その力を実用的な文章作成に応用する訓練が有効と考えられます。

○ 結論：旭中学校の生徒像旭中学校の生徒は、「安定した生活基盤と先生への高い信頼感」という土台の上で、「論理的思考力と基礎知識」という高い学力を兼ね備えています。特に、数学的な事象を深く考察し、自分の考えを論理的に表現するという、高度な学力として求められる能力が非常に高い傾向にあります。これは、授業や指導において、知識の習得だけでなく、生徒に「なぜそうなるのか」を考えさせ、表現させる活動が日常的に行われていることを強く示唆しています。

「令和７年度全国学力・学習状況調査 中学校生徒質問」

以下の比較軸を用いて分析
・学校（旭中学校）の生徒の割合（%）
・都道府県（公立）の生徒の割合（%）
・全国（公立）の生徒の割合（%）

生徒の生活習慣、学習環境、学習意欲、自己肯定感、各教科に対する意識に関する傾向を分析

1. 生活習慣に関する分析

質問	項目	旭中学校	都道府県	全国	傾向
(1) 朝食	毎日食べている	83.6%	76.2%	78.7%	非常に高い（優位）
(2) 就寝時刻	毎日同じくらい	32.3%	28.5%	34.0%	やや低い（全国比）
(3) 起床時刻	毎日同じくらい	46.1%	48.6%	54.7%	やや低い（全国比）

朝食摂取の割合が 83.6%と、都道府県（76.2%）や全国（78.7%）と比較して非常に高く、健康的な生活習慣の維持に努めている生徒が多いことがわかります。
一方で、規則正しい就寝・起床（毎日同じくらいの時刻）の割合は、特に起床時刻において、全国平均（54.7%）と比較して**8.6 ポイント低い（46.1%）結果であり、睡眠リズムについては改善の余地があるかもしれません。

2. 自己肯定感・対人関係・社会意識に関する分析

質問	項目	旭中学校	都道府県	全国	傾向
(5) よいところ	あると思う（計）	89.7%	85.7%	86.2%	やや高い
(6) 先生が認めてくれる	そう思う（計）	95.2%	92.2%	92.2%	高い
(10) 相談	いつでもできる（計）	84.1%	71.7%	73.2%	非常に高い（優位）
(12) 学校は楽しい	そう思う（計）	89.6%	86.5%	86.1%	やや高い
(9) いじめ	いけないことだと思う	79.7%	72.4%	77.1%	やや高い（断固とした姿勢）

自己肯定感と学校生活の満足度が高い傾向にあります。
「自分によいところがあると思う」((5)「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）は 89.7%で、全国（86.2%）を上回っています。
「先生はよいところを認めてくれると思う」((6)）は 95.2%で、全国（92.2%）より高く、生徒と先生の関係が良好であると推察されます。
「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」((10)「いつでも相談できる」「どちらかといえば相談できる」の合計）が 84.1%と、全国（73.2%）より 10.9 ポイントも高く、安心して相談できる環境が整っていることが特筆されます。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」（(9)「そう思う」）の割合も 79.7%と、全国（77.1%）より高く、いじめに対する断固とした姿勢が見られます。

3. 学習環境と学習時間に関する分析

質問	項目	旭中学校	都道府県	全国	傾向
(17) 平日学習時間（優位）	1 時間以上（計）	83.6%	75.8%	61.1%	非常に高い
(17) 平日学習時間（全国比）	30 分未満	15.9%	17.1%	9.9%	やや高い
(19) 休日学習時間	2 時間以上（計）	47.1%	56.6%	60.1%	低い（全国比）
(20) 塾や家庭教師	教わっている（計）	59.4%	62.1%	49.3%	高い（全国比）
(21) 読書（平日）	30 分以上（計）	18.5%	20.7%	21.4%	やや低い

平日（月～金）の学習時間（塾等含む）が「1 時間以上」の生徒の割合は 83.6%で、全国（61.1%）を 22.5 ポイントも上回っており、平日の学習習慣が非常に定着していることが分かります。
一方、土日の学習時間については、「2 時間以上」の割合が 47.1%で、全国（60.1%）と比較して 13.0 ポイント低い結果です。平日の学習習慣は定着しているものの、休日の学習については、全国と比較してやや少ない傾向が見られます。
学習塾や家庭教師に教わっている生徒の割合（(20)「学習塾のみ」「家庭教師のみ」「両方」の合計）は 59.4%で、全国平均（49.3%）より 10.1 ポイント高いです。

4. 学習活動と能力に関する分析

(1) 各教科への意識

質問	項目	旭中学校	都道府県	全国	傾向
(53) 数学が好き	そう思う（計）	65.9%	55.4%	53.8%	非常に高い（優位）
(54) 数学がよく分かる	そう思う（計）	79.8%	73.0%	70.3%	高い
(52) 数学が得意	そう思う（計）	45.2%	47.4%	46.0%	平均的
(45) 国語が好き	そう思う（計）	48.8%	58.6%	57.9%	低い（全国比）

数学に対して「好き」と答えた生徒の割合は 65.9%で、全国（53.8%）と比較して 12.1 ポイントも高く、授業内容についても「よく分かる」と答えた生徒が 79.8%（全国：70.3%）と高いことから、数学に対する意識・理解度が高いことが特筆されます。
一方、国語を「好き」と答えた生徒の割合は 48.8%で、全国（57.9%）より 9.1 ポイント低く、苦手意識を持つ生徒がやや多い可能性があります。

(2) ICT 活用能力

質問	項目	旭中学校	都道府県	全国	傾向
(29-2) 情報収集	できると思う（計）	92.7%	92.0%	91.5%	やや高い

（29-4）プレゼン作成	できると思う（計）	84.9%	78.7%	76.6%	高い（優位）
（29-3）情報整理	できると思う（計）	63.4%	65.7%	63.3%	平均的

特にプレゼンテーション作成能力（(29-4)「できると思う」「どちらかといえばできると思う」の合計）は 84.9%で、全国（76.6%）と比較して 8.3 ポイント高く、授業での ICT 活用が進んでいることが推察されます。

5. まとめと考察

【旭中学校の主な強み（全国・都道府県と比較して優位な点)】

生活習慣の基盤: 朝食を毎日食べる生徒の割合が非常に高い（83.6%)。

〇安心感と人間関係:

先生との関係が良好で､先生が自分の良いところを認めてくれていると感じている生徒が多い(95.2%)。困りごとの相談について「いつでもできる」と回答した生徒が**84.1%**と､全国より 10.9 ポイントも高く、高い安心感とサポート体制が整っている。

〇学習習慣

平日の学習時間「1 時間以上」の生徒が全国平均を大きく上回り（83.6% vs 61.1%)、学習習慣が非常に定着している。

数学へのポジティブな意識: 数学を「好き」(65.9%)､「よく分かる」(79.8%）と回答した生徒の割合が全国平均より大幅に高い。

〇ICT 活用能力: プレゼンテーション作成能力が全国と比較して高い（84.9%)。

【旭中学校の今後の課題となり得る点】

■規則正しい生活リズムの強化

規則正しい起床時刻（46.1%）の割合が全国平均（54.7%）より低く、特に週末を含めた規則正しい生活リズムの定着に課題がある可能性があります。

■国語への意識向上:

国語を「好き」と回答した生徒の割合が全国平均より低い（48.8% vs 57.9%)。

生徒の興味・関心を引き出し、国語学習への意欲を高める工夫が求められます。

■休日の学習習慣:

平日の学習習慣は優秀ですが、土日の学習時間が全国平均より少ない傾向にあり、休日の学習機会やモチベーション向上を促すことが、さらなる学力向上につながる可能性があります。

本校生徒は、「平日の努力家で、学校生活に安心感を持ち、特に数学に強い関心を持つ傾向」があると言えます。

旭中学校の生徒の主要な傾向分析

1. 精神的・社会的安定性の高さ

旭中学校の生徒は、学校生活における精神的な安定性と安心感が全国平均に比べて際立って高い傾向があります。

・高い安心感とサポート体制（優位）

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」生徒の割合が 84.1%（全国：73.2%）と、10 ポイント以上高いことが特筆されます。これは、生徒が学校に対して強い信頼感を抱き、心理的な安全が確保されていることの表れです。

・良好な教師との関係

「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒が 95.2%（全国：92.2%）と高く、教師が生徒一人ひとりの良い面に目を向け、それを適切にフィードバックできている可能性が高いです。

2. 定着した学習習慣と高い努力レベル

平日の学習習慣が非常に定着しており、意欲的に取り組む傾向が見られます。

・平日学習習慣の定着（優位）

平日の学習時間が**「1 時間以上」の生徒が 83.6%と、全国平均（61.1%）を大きく上回っています。これは、多くの生徒が日常的に、学校の授業以外の時間を使って学習に取り組んでいることを示しています。

・塾・家庭教師の利用

学習塾や家庭教師に教わっている生徒の割合が 59.4%と、全国（49.3%）より 10 ポイント以上高く、家庭においても学習への投資やサポートが積極的であることが推測されます。

・ICT 活用への自信

特に「プレゼンテーションを作成できる」生徒が 84.9%と高く、授業や課題を通じて、生徒が ICT スキルを身につけ、それを活用する自信を持っていることがうかがえます。

3. 教科別意識の偏り

教科への関心には、明確な傾向の差が見られます。

数学への強い関心と理解度（優位）

数学を「好き」(65.9%)、「よく分かる」(79.8%）と回答した生徒の割合が、全国平均より大幅に高く、

数学へのポジティブな意識と学力の高さが期待されます。

国語への関心の低さ

一方で、国語を「好き」(48.8%) と回答した生徒の割合が全国平均 (57.9%) より低い結果となっています。これは、数学の強さの裏返しとして、文科系科目への興味や学習動機付けに課題が残ることを示唆しています。

4. 改善の余地がある傾向

平日の努力や安定感が高い一方で、生活リズムや休日の過ごし方には改善の余地があります。

生活リズムの乱れ:「毎日、同じくらいの時刻に起きている」生徒の割合が**46.1%**と、全国平均(54.7%)より低いです。平日の学習時間を確保するために無理をしている、あるいは休日に生活リズムが崩れやすいといった傾向が考えられます。

休日の学習の少なさ: 土日など学校が休みの日の学習時間が、全国平均に比べて少ない傾向が見られます。平日集中して学習している分、週末はメリハリをつけて休養や他の活動を優先している可能性がありますが、学習の総時間として考えると、休日の有効活用がさらなる学力向上の一つの鍵となります。

【総括】旭中学校の生徒像

旭中学校の生徒は、学校という環境を非常に信頼し、先生からの温かいサポートを感じながら、平日熱心に学習に取り組む努力家です。特に数学や ICT 活用といった分野に強みを持つ傾向が見られます。

一方で、平日と休日の生活リズムの差が大きく、国語などの分野で学習意欲の向上や、週末の学習習慣の定着が今後のさらなる成長のための課題と言えます。

この結果は、学校側が築いてきた生徒指導や信頼関係の成果が明確に現れていると評価できます。